

公民科

教科名	公民科(学校設定科目)	科目名	倫理研究
科目の目標	現代社会における人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、資料の活用やグループ学習を通して、人間尊重の精神と広い視野をもって行動できる能力と態度を養う。		
履修学年	3年	類型	理型
単位数	単位	履修形態	選択履修
教科書	高校学校新倫理新訂版 (清水書院)	副教材等	テオリア 最新倫理資料集(第一学習社) パスポート倫理問題集(清水書院)

①学習の目標

- (1) 多様化・複雑化する現代社会の中で、確立したこの視点を身につける。
- (2) センター試験のリード文や資料を読解して解答するとともに、出題者の思想的観点について思索を深め、自己の価値観の形成の一助とする。
- (3) 討論やレポート、発表を通じ、他者の意見に耳を傾け、自己の思索を深める。

②学習内容と授業の進め方

- 第1編 青年期と人間のあり方
第1章 青年期の課題と自己形成
- 第2編 人間としての自覚と生き方
- ・古代ギリシア哲学を通して、愛知の精神に基づいた人生のあり方を考察する。
 - ・ヘブライズム・イスラム・インド思想を通して、人生のあり方を考察する。
 - ・中国思想を通して、人生のあり方を考察する。
 - ・作品と芸術家の関係を通して、人生における芸術の意味を考察する。
- 第3編 国際社会に生きる日本人としての自覚
- ・日本思想の基点である日本風土の特徴とそこから生まれた思想、更に仏教・儒教の伝来や西欧思想の流入とその日本化など現代日本思想の原風景を考察する。
 - ・現代日本人の自覚のあり方を、戦後活躍した先人の言行を通して考察する。
- 第4編 現代社会と倫理
- ・多様化した現代社会とそこから派生する諸問題について考察する。
 - ・ルネサンス思想から構造主義までその時代状況を支える思想を考察しながら、現代日本の諸問題を解決するための方途を考察する。
- 第5編 現代の諸課題と倫理
- ・環境・生命の視点から現代社会の諸問題を考察する。
 - ・家族・地域社会と情報社会の視点から現代社会の諸問題を考察する。
 - ・異文化理解と人類の福祉の視点から現代社会の諸問題を考察する。

③学習に当たっての留意点

1年次に「現代社会」を2単位必修で実施しているため、3年次の「倫理」では更に深化させ、受験対応の知識を超えた展開も必要になる。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度【関】

人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める意欲をもつとともに、諸課題を探求する態度を身に付け、人間の在り方生き方について自覚を深める。

(2) 思考・判断力【思】

生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立って主体的・公正に判断する。

(3) 資料活用の技能・表現【資】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、自己形成に資するよう活用するとともに、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。

(4) 知識・理解【知】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の素点とともに、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5 6 7 8 9		教科オリエンテーション ・人間としての自覚と生き方 ギリシャ思想 ヘレニズムの思想 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム・仏教 中国思想 日本思想	・先哲の思想の基本的な概念を理解している。 【知識・理解】 ・先哲の思想がうまれた時代背景を前提に、思想の意味を考察することができる。 【思考・判断】 ・現代社会における社会的課題を認識し、先哲の思想から普遍的な要素を正しく判断し、その結果を文章に表現したり、発表したりできる。 【資料活用の技能・表現】 ・先哲の思想を学習の枠の中にとどめず、討論等を通じ、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。 【関心・意欲・態度】
前期期末考査			
9 10 11 12		・国際社会に生きる日本人としての自覚 日本思想 ・現代社会と倫理 西洋近代思想 現代思想 ・現代の諸課題と倫理	・日本思想の展開や、現代思想の概念について理解している。 【知識・理解】 ・近現代社会の課題の所在を意識し、先哲がどう思索を深めてきたかを考察することができる。 【思考・判断】 ・先哲の著書や当時の客観的データを活用し、先哲がいかに課題を解決使用としたかを読み解き、その結果を文章に表現または発表することができる。また、他者の意見に耳を傾け、自己に還元することができる。 【資料活用の技能・表現】 ・先哲の思想と現代社会の諸問題の関わりを理解し、それらを生かして新たに自己の在り方生き方を探求する意欲と態度を持つ。また、先哲の思想をより深く理解するため、少量でも原典に取り組み意欲を持つ。
後期期末考査			